

義務教育学校「まくべつ学園」 に関する地域説明会 【参考資料】

1 これまでの議論について

1 はじめに

幕別小学校と幕別中学校は、令和元年度から「まくべつ学園」として、9年間の一貫した系統的な教育課程を編成し、中学校教員の小学校への乗入授業、小学生の中学校登校など、小中一貫教育に積極的に取り組んできました。

一方で、幕別町教育委員会では、令和2年11月に「幕別町学校施設の長寿命化計画」を策定し、築約20年（または長寿命化改修から約20年）を迎えた建物について予防保全的な改修工事を行い、築約40年で長寿命化改修工事を行うことで、建物を約80年間使用できるように改修を行っていく方針を示し、学校の長寿命化改修事業に着手していますが、次期対象施設として検討してきた幕別小学校校舎については、「まくべつ学園」の今後の小中一貫教育の進め方が大きく関わっています。

このことから、令和4年7月に「幕別小学校と幕別中学校の今後の小中一貫教育の進め方について」を策定し、幕別小学校と幕別中学校の今後の小中一貫教育を推進するに当たり、次の3通りから、「まくべつ学園」のあり方と施設整備の方向性を検討してまいりました。

- (1) 幕別小学校と幕別中学校を使用した「施設分離型」の「小中一貫型小学校・中学校」
- (2) 幕別小学校あるいは幕別中学校を活用した「施設一体型」の「小中一貫型小学校・中学校」
- (3) 幕別小学校あるいは幕別中学校を活用した「義務教育学校」

この間、保護者に対しましては、令和4年11月と12月に、幕別小学校と幕別中学校それぞれで保護者懇談会、令和5年2月には、まくべつ学園講演会（大空学園義務教育学校の取組から見る小中一貫教育）を開催し、5月には、小・中学校全ての保護者を対象に、「まくべつ学園」のあり方と施設整備の方向性の検討内容について、保護者の考えや浸透度合いを把握するため、アンケート調査を実施したところであります。

また、令和5年1月から毎月、小・中学校で発出する「学校だより」で、検討している内容などの説明のほか、小中一貫教育、大空学園義務教育学校での取組やメリットなど、シリーズ化しながらお伝えしてまいりました。

また、9月には「地域説明会」を開催し、「幕別中学校を活用した義務教育学校（案）」を示し、特に反対意見もなく、理解を得たものと考えましたことから、その後「パブリックコメント」の実施を経て、11月28日に「幕別中学校を活用した義務教育学校の設置に係る方針」を決定したところであります。

※「まくべつ学園」とは、令和元年度に設置し、幕別本町地区の幕別小学校と幕別中学校で構成する「施設分離型」の「小中一貫型小学校・中学校」をいいます。

2 「幕別中学校を活用した義務教育学校の設置に係る方針」の決定理由について

(1) これまでの「まくべつ学園」の小中一貫教育の取組について

「まくべつ学園」では、9年間の一貫した教育課程の編成を実施し、中学校教員の小学校への乗入授業、小学生の中学校登校のほか、小学校と中学校が連携した児童生徒会活動を通じて、様々な活動を行うなど、小中一貫教育に積極的に取り組み、多くの成果を挙げており、更なる推進が必要と考えます。

(2) 今後の小中一貫教育の進め方に関する保護者アンケート調査の結果について

幕別小学校と幕別中学校の全ての保護者を対象に、「まくべつ学園」のあり方と施設整備の方向性の検討内容についてアンケート調査を実施したところですが、今後の方向性については、以下のとおり「義務教育学校」が最も高い回答率となりました。

	「まくべつ学園」のあり方と施設整備の方向性	回答数	回答率
1	幕別小学校と幕別中学校を使用した「施設分離型」の「小中一貫型小学校・中学校」	46件	28.9%
2	幕別小学校あるいは幕別中学校を活用した「施設一体型」の「小中一貫型小学校・中学校」	52件	32.7%
3	幕別小学校あるいは幕別中学校を活用した「義務教育学校」	56件	35.2%
合計		154件	96.8%

※アンケート調査の回答数159件(全家庭数191件、回答率83.3%)

(3) 義務教育学校で考えられるメリットについて

義務教育学校では、教育課程区分を「前期課程6年-後期課程3年」以外にする特例があり、9年間の中で独自の区分を設けて子ども達の発達段階に応じて、柔軟で効果的な教育課程を組み指導を行うことが可能となります。

また、一つの「学校組織」であることから、1名の校長のリーダーシップのもと、9年間を見通した教育目標を掲げ、児童生徒の指導に当たり、より多くの教職員が関わるのが可能となり、児童生徒の資質や能力を伸ばすことが期待できることや、9年間継続して、教員間で児童生徒の情報を共有しやすく、児童生徒の個性に応じたきめ細かで丁寧な生徒指導が可能となります。

さらに、義務教育学校における1年生から9年生までの児童生徒が学校行事などを通じた異学年交流による精神的な発達や社会性の育成の効果が期待されております。

その他、「9年間の人間関係の固定化」や「小学校6年生の最高学年の自覚や達成感の低減」などのデメリットも考えられていますが、具体的な運営方法によって軽減できると考えます。

(4) 幕別小学校と幕別中学校の学校施設の状況について

「幕別町学校施設の長寿命化計画」に基づき、築約20年（または長寿命化改修から約20年）を迎えた建物について予防保全的な改修工事を行い、築約40年で長寿命化改修工事を行うことで、建物を約80年間使用できるように改修を行っていく方針を示し、学校の長寿命化改修事業に着手していますが、両校の学校施設の建築年数や劣化度調査などの結果を踏まえ、「幕別中学校を活用」することで進めてまいりたいと考えます。

(5) 「幕別中学校を活用した義務教育学校(案)」に関する地域説明会について

9月26日に開催した「地域説明会」では、保護者や地域住民、教職員が60名参加し、今後の「まくべつ学園」のあり方として、上記の(1)から(4)までの説明を踏まえ、「幕別中学校を活用した義務教育学校(案)」の方向性を示したところですが、反対する意見はなく、理解を得たものと考えます。



以上のことから、「幕別中学校を活用した義務教育学校の設置に係る方針」を決定することとしました。

2 幕別小学校及び幕別中学校 の歴史と児童生徒数の推移、学 校施設の状況について

1 幕別小学校及び幕別中学校の歴史について

(1) 幕別小学校

幕別小学校は、普通教室18、特別教室7、特殊学級教室1など延べ4,416㎡の鉄筋コンクリート造2階建ての校舎を2カ年で建設、昭和53年4月に新設開校し、鉄骨造981㎡の屋内運動場は開校後の昭和53年12月に完成、昭和62年4月に新和小学校、平成8年4月に相川小学校が統合し、平成22年度には、校舎及び屋内運動場の耐震補強工事を実施し、現在は指定避難所にもなっています。

「未来に生きる高い知性と豊かな心情と強い意志をつちかい主体的に行動できる心身ともに健康な子どもを育てる」を教育目標として掲げ、「子どもを真ん中にした学校づくり」を合言葉に、児童会活動や行事に向けた実行委員会の取組に、学びの中で身に付けた「話し合う力」を生かせるような教育活動のほか、教科担任制の実施など、特色ある教育活動を積極的に進めています。

(2) 幕別中学校

幕別中学校は、昭和63年に鉄筋コンクリート造1,243㎡の屋内運動場の全面的改築を行い同年12月に完成、平成4年には、鉄筋コンクリート造2階建、4,508㎡の新校舎は普通教室12、特別教室11を南側と北側に配置し、2階部分は廊下で結び、平成5年3月10日にプレハブの仮設校舎から現幕別中学校校舎に引っ越しが行われ、現在は指定避難所にもなっています。

「美しく たくましく」を校訓として掲げ、行事における異学年集団の「縦割り活動」、学力向上プランや年間・単元シラバスを活用した授業改善、習熟度別少人数指導やT T等の活用、長期休業中の学習教室の実施などの組織的な取組を行っています。

2 児童生徒数の推移及び将来の見通し

「幕別町人口ビジョン」における将来の人口の推計結果では、2045（令和27）年には、総人口が2割減少し、2060（令和42）年には20,000人を下回る見込みであり、幕別本町地区においても、出生数の減少及び少子高齢化などにより、地区全体では将来的に児童生徒数が減少する見通しとなっています。

(1) 幕別小学校

幕別小学校では、昭和53年度の新設開校以降、昭和56年度に児童数794人、学級数は22学級でピークを迎え、令和6年5月1日現在の児童数は160人、通常学級6学級、特別支援学級7学級となっています。

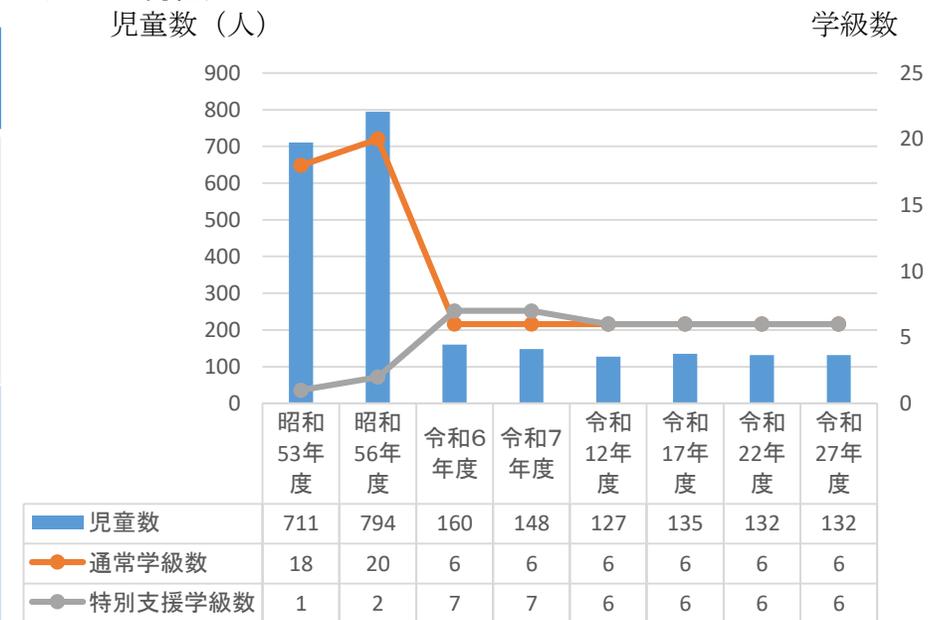
今後は、令和27年度までに児童数は緩やかな減少傾向（21年間で約17.5%減）にあり、学級数は通常学級の6学級は変わらず、特別支援学級は7～6学級で推移することが予想されます。

表-2 令和6年5月1日現在の児童生徒数及び学級数
○幕別小学校 (単位：人、学級)

学年	通常学級						特別支援学級	合計
	1	2	3	4	5	6		
児童数	27 (6)	28 (8)	28 (8)	26 (2)	29 (6)	22 (4)	(知的)10 (情緒)20 (言語)2 (病弱)2 合計 34	160
学級数	1	1	1	1	1	1	(知的)2 (情緒)3 (言語)1 (病弱)1 合計 7	13

※通常学級の児童数の()は特別支援学級の児童数

図-1 幕別小学校の児童数・学級数の推移と将来の見通し
(R6.5.1現在)



※R6年度以前は実績数。

※R7年度以降は「第2期幕別町子ども・子育て支援事業計画」の「人口の推計」と「幕別町人口ビジョン」から5年ごとの幕別市街地人口の各年齢の人口から算出。

※「特別支援学級数」のR7年度の第1学年以降の対象者は近年の状況から推計。

(2) 幕別中学校

幕別中学校では、昭和38年度に生徒数778人、学級数は20学級でピークを迎え、令和6年5月1日現在の生徒数は83人、通常学級3学級、特別支援学級6学級となっています。

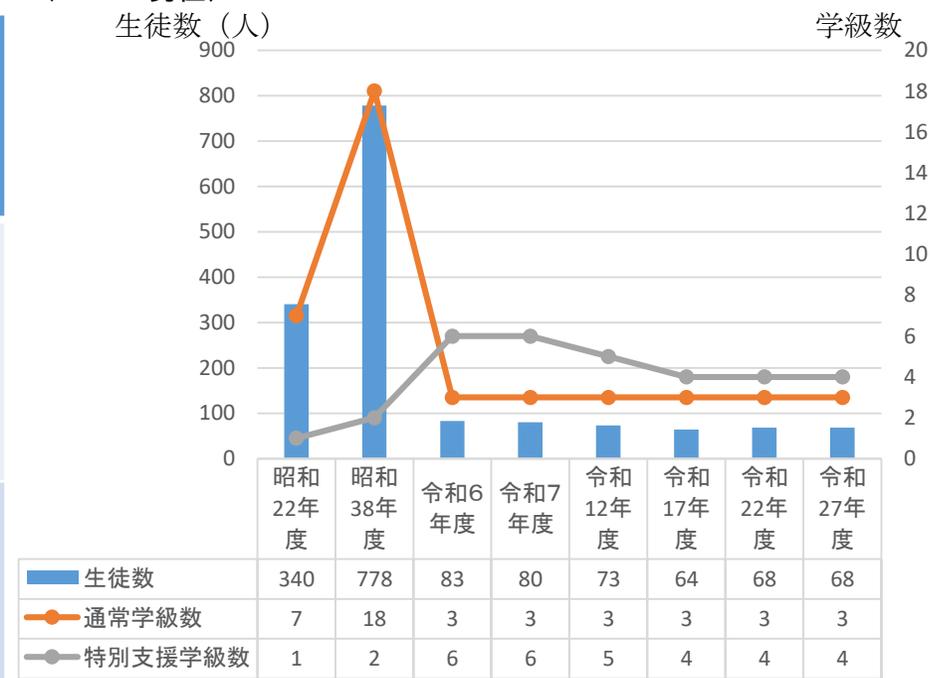
今後は、令和27年度までに生徒数は緩やかな減少傾向（21年間で約18.1%減）にあり、学級数は通常学級の3学級は変わらず、特別支援学級は6～4学級で推移することが予想されます。

表-2 令和6年5月1日現在の児童生徒数及び学級数
○幕別中学校
(単位：人、学級)

学年	通常学級						特別支援学級	合計
	1	2	3					
生徒数	31 (6)	28 (5)	24 (4)				(知的)2 (情緒)10 (肢体)1 (言語)1 (病弱)1 合計15	83
学級数	1	1	1				(知的)1 (情緒)2 (肢体)1 (言語)1 (病弱)1 合計6	9

※通常学級の児童数の()は特別支援学級の生徒数

図-2 幕別中学校の生徒数・学級数の推移と将来の見通し
(R6.5.1現在)



※R6年度以前は実績数。幕別小学校と同様に算出。

※「特別支援学級数」は幕別小学校から対象者がそのまま移行することで推計。

(3) 通学区域の状況

通学区域は、幕別町立小、中学校通学区域規則（昭和55年教育委員会規則第3号）において定められ、幕別小学校と幕別中学校の通学区域（本町1・2・3、幸町、旭町1・2・4、錦町1・2、寿町1・2・3、宝町、新町、南町1・2、緑町1・2・3・4、相川・東・西・南・北、大豊、豊岡1・2、明野南・北、新川、軍岡、猿別、西猿別、新和）は一致しており、スクールバスを5路線（6台）で運行しています。

(4) 学校施設の状況

① 幕別小学校

「幕別町学校施設の長寿命化計画」において、幕別小学校校舎の劣化状況評価の健全度は、札内南小学校及び札内北小学校校舎とともに37点で最も低く、第1期に長寿命化工事を実施する計画となっており、建築年数や劣化度調査などの結果を踏まえ、令和4年度から2カ年で実施する札内南小学校の長寿命化改修工事の次期対象施設と検討してきたところであり、屋内運動場は、健全度が45点で他の学校施設と比較しても低い点数となっており、第1期で長寿命化工事を実施する計画になっています。

② 幕別中学校

幕別中学校校舎は、健全度が59点で、第1期に予防保全的な改修工事を実施し、第3期に長寿命化工事を実施する計画となっており、屋内運動場は、健全度が65点で、第3期に長寿命化工事を実施する計画となっています。

表-4 幕別町長寿命化計画における学校施設劣化度評価結果(抜粋)

施設名	建物用途	階数	延床面積(m ²)	建築年度	劣化状況評価					健全度(100点満点)
					屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	
幕別小学校	校舎	2	4,416	S52	D	C	C	C	C	37
	屋体	1	981	S53	A	C	C	C	C	45
幕別中学校	校舎	2	4,508	H5	D	C	B	B	B	59
	屋体	1	1,243	S63	B	C	B	B	B	65

表-5 幕別町長寿命化計画における長寿命化の実施計画(抜粋)

施設名	建物用途	対応方針			
		第1期	第2期	第3期	第4期
		概ね10年以内に長寿命化改修	概ね20年以内に長寿命化改修	概ね30年以内に長寿命化改修	概ね40年以内に長寿命化改修
		R3~12	R13~22	R23~32	R33~42
幕別小学校	校舎	長寿命化改修		長寿命化(予防)	
	屋体	長寿命化改修		長寿命化(予防)	
幕別中学校	校舎	長寿命化(予防)		長寿命化改修	
	屋体			長寿命化改修	

※「A」: 概ね良好、「B」: 部分的に劣化
「C」: 広範囲に劣化、「D」: 早急に対応する必要がある

※「予防保全的な改修工事」: 経年による機能や性能の劣化状況を現状回復するための工事
※「長寿命化改修工事」: 構造躯体(建物の構造を支える骨組みにあたる部分)の耐久性を高めて、物理的な耐用年数近くまで建物を使用するための工事